

2014 年 2 月 6 日
(改訂日：2018 年 1 月 9 日)

お客様各位

株式会社 セゾン情報システムズ
HULFT 事業部

**HDC-EDI Base deTradeII 送受信機能起動時における
Java8 のセキュリティ警告とその回避策について**

HDC-EDI Base deTrade II で送受信を行う環境に Java8 を採用することにより、正常に動作しなくなる事象が発生しておりますので、ご報告いたします。

－ 記 －

1. 対象バージョン

対象	バージョン
Java実行環境	JRE 8
HDC-EDI Base deTrade II	HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.2.0 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.3.0 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.4.1 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.5.0 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.6.0 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.7.0 同梱モジュール

※JRE8のサポートは、HDC-EDI Baseシリーズ バージョン4.2.0からです。

2. ご報告事項

JRE8 の環境下で HDC-EDI Base deTrade II の送受信機能を起動した際に表示される「Java セキュリティ警告」の発生条件、タイミング、そして、回避策（警告画面を非表示とする方法）を解説しています。表示される警告内容にあわせ、回避策の適用をお願い致します。

3. 回避方法

発生事象と回避方法につきましては別紙を参照の上、ご対応をお願い致します。

上記内容にてご不明な点がございましたら、契約しているサポート窓口へお問い合わせください。

以上

【改訂履歴】

日付	版数	改版内容
2014/2/6	1 版	1 版発行
2014/2/28	2 版	回避方法を追加しました。
2014/8/8	3 版	HDC-EDI Base Ver.4.1.0 の情報を追加しました。
2015/8/20	4 版	HDC-EDI Base Ver.4.2.0 と Java8 の情報を追加しました。
2016/12/14	5 版	Java7 の情報を削除しました。 HDC-EDI Base Ver.4.5.0 までの情報を追加しました。
2018/1/9	6 版	HDC-EDI Base Ver.4.7.0 までの情報を追加しました。

免責事項

- 本資料は、2017年08月時点で弊社が保有している情報で作成されています。
- 本資料にある回避策は、今後のOracle社の改版などによっては恒久的な対策にはならない場合がございますので予めご了承下さい。
- 本資料で使用している警告画面や警告文言は、Windows 7 Professional、IE 11の環境で、対象バージョンのHDC-EDI Baseに同梱されているHDC-EDI Base deTrade IIを使用し、検証したものです。
Windows OSやIEのバージョンによって、警告画面、警告文言が若干異なりますのでご注意下さい。

目次

はじめに	2
Java 警告が表示されるクライアントの送受信機能操作.....	3
Java セキュリティ 警告のパターン	5
Java セキュリティ 警告の出力フロー	6
Java セキュリティ 警告別回避策	7
① アプレットの起動エラー	7
② Java Update 確認.....	8
③ アプリケーション実行確認.....	9
④ アプリケーションへのアクセス許可	10
既知の問題について	11
付録：セキュリティ・ベースラインと有効期間	12

はじめに

HDC-EDI Base deTrade II は、Webベースのファイル転送システムで、EDIパッケージ「HDC-EDI Base シリーズ」のオプション製品です。HDC-EDI Base deTrade II にあるクライアントの送受信機能は、「Java アプレット」を使って実行しています。

尚、バージョン4.6.0以降では「非アプレット」または「アプレット」の利用を選択することが可能となり、本資料では「アプレット」の利用者を対象としております。

本資料は、JRE8以上の環境下でHDC-EDI Base deTrade II の送受信機能を起動した際に表示される「Javaセキュリティ警告」の発生条件、タイミング、そして、回避策（警告画面を非表示とする方法）を解説しています。表示される警告内容にあわせ、回避策の適用をお願い致します。

尚、対象となるJREとHDC-EDI Base deTrade II のバージョンは以下のとおりです。

対象	バージョン
Java実行環境	JRE 8
HDC-EDI Base deTrade II	HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.2.0 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.3.0 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.4.0 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.4.1 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.5.0 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.6.0 同梱モジュール HDC-EDI Base E ² X,B2B v4.7.0 同梱モジュール

※JRE8のサポートは、HDC-EDI Baseシリーズ バージョン4.2.0からです。

※「非アプレット」は、バージョン4.6.0からご利用いただけます。

Java 警告が表示されるクライアントの送受信機能操作

Java 警告が表示される HDC-EDI Base deTradeII クライアントの送受信操作には、以下の操作画面で表しているとおりケース1からケース6まであります。

■ ケース1



【画面識別】
[ファイル転送業務]パネル
[受信一覧]
[未受信ファイル一覧]
【操作】
[受信]ボタンをクリック時

■ ケース2



【画面識別】
[ファイル転送業務]パネル
[受信一覧]
[未受信トランザクション一覧]
【操作】
[受信]ボタンをクリック時

■ ケース3



【画面識別】
[ファイル転送パネル]
[再受信一覧]
[再受信トランザクション一覧]
【操作】
[再受信]ボタンをクリック時

■ ケース 4



【画面識別】

[ファイル転送パネル]

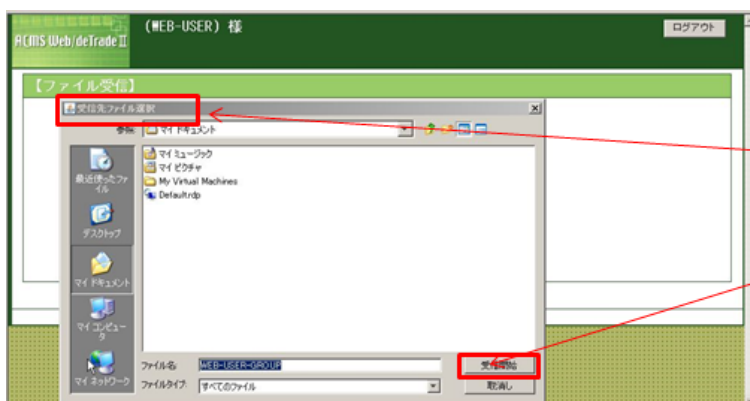
[送信一覧]

[送信ファイル一覧]

【操作】

[送信]ボタンをクリック時

■ ケース 5



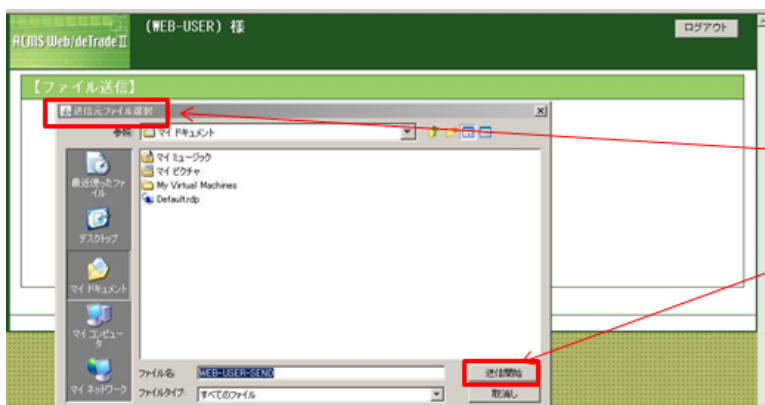
【画面識別】

[受信先ファイル選択]

【操作】

[受信開始]をクリック時

■ ケース 6



【画面識別】

[送信先ファイル選択]

【操作】

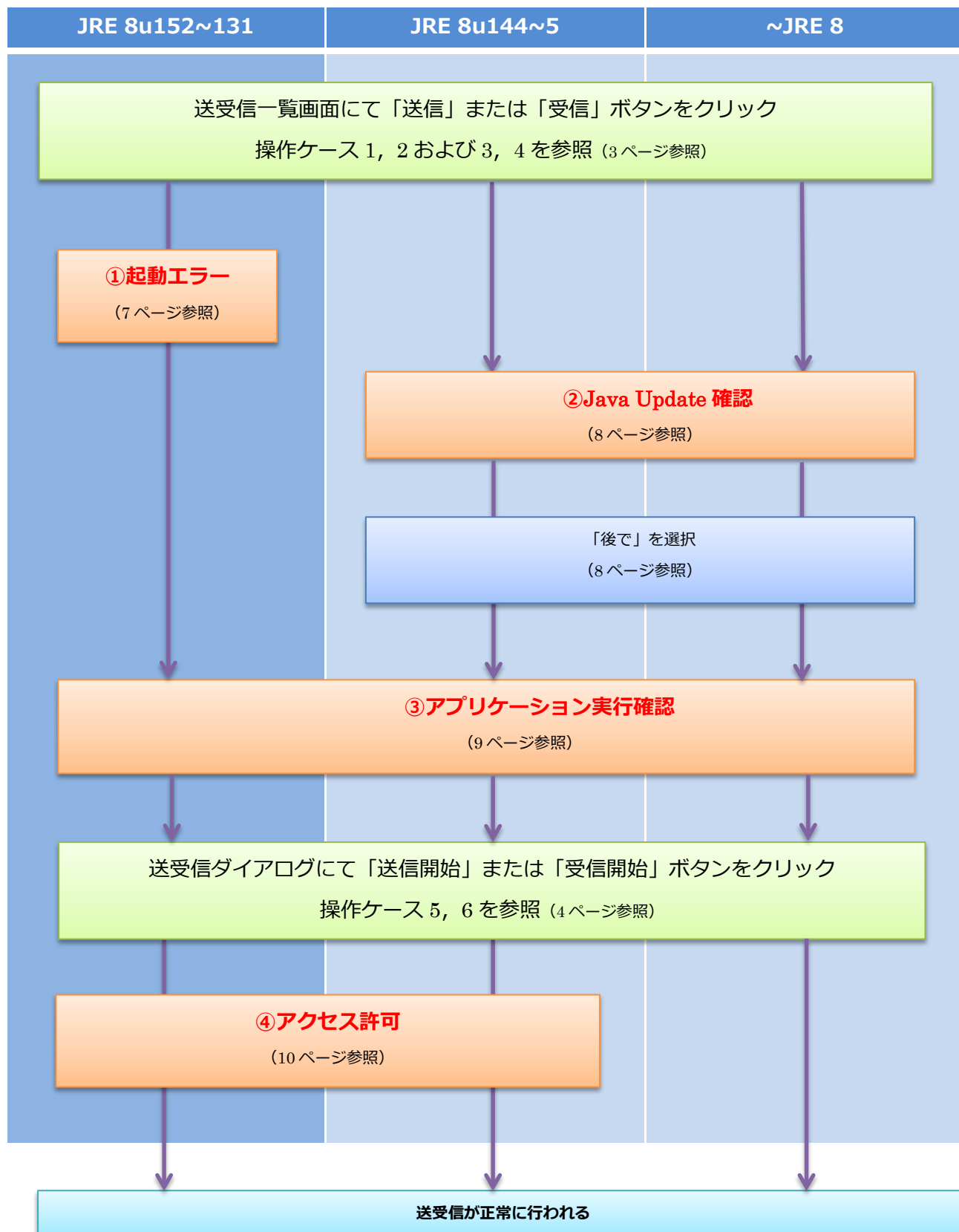
[送信開始]をクリック時

Java セキュリティ警告のパターン

HDC-EDI Base deTradeIIクライアントの送受信機能で表示される警告プロンプトは、JavaのバージョンとHDC-EDI Baseシリーズのバージョンによってパターンがあります。以下の表をご覧ください。

警告	表示される警告プロンプト	警告が表示される JRE のバージョン	HDC-EDI Base の バージョン
①	アプレットの起動エラー	JRE 8u131～8u152	4.2.0～4.6.0
②	Java Update 確認	JRE 8～8u144	4.2.0～4.7.0
③	アプリケーション実行確認	JRE 8 全て	4.2.0～4.7.0
④	アプリケーションへのアクセス許可	JRE 8u5～8u152	4.2.0～4.7.0

Java セキュリティ警告の出力フロー



Java セキュリティ警告別回避策

① アプレットの起動エラー

バージョン	JRE 8U131～8U152
発生条件	・ HDC-EDI Baseのバージョン4.2.0を利用、または、 4.3.0～4.6.0の「JRE6用アプレット」を利用
タイミング	操作ケース1～4の送受信機能のいずれかを行った時
回避策	以下パートナーズ・ポータルインフォメーションに掲載している「Java 8 Update 131においてアプレット起動エラーが発生する問題について」における対処方法を実施する https://www.dal.co.jp/pp/ 参照場所：3.対処方法 1) HDC-EDI Base deTradeII送受信アプレット起動エラーへの対処方法

(補足) 「JRE6用アプレットを利用」とは、取引先様環境の要件が「JRE 6」を許容する必要がある場合にWAS側のdetrade.propertiesに以下を設定していることを指します。

dtc.client_jre_version=15

● 表示されるダイアログ



② Java Update 確認

バージョン	JRE 8～8U144
発生条件	・稼働しているJREのセキュリティ・ベースラインが最新バージョンより低い ・JREバージョンの有効期限切れ
タイミング	操作ケース 1～4の送受信機能のいずれかを行った時
回避策	最新のJREにアップグレードする

(補足) この警告の詳細は、http://www.java.com/ja/download/faq/expire_date.xml をご確認ください。また、「セキュリティ・ベースライン」と「有効期限」の考え方は、本資料にあるP12の「付録：セキュリティ・ベースラインと有効期間」をご覧ください。

● 表示されるダイアログ



③ アプリケーション実行確認

バージョン	JRE 8全バージョン
タイミング	操作ケース 1～4の送受信機能のいずれかを行った時
回避策	「上記の発行者と場所からのアプリケーションについては、次回から表示しない」に☑し実行します。

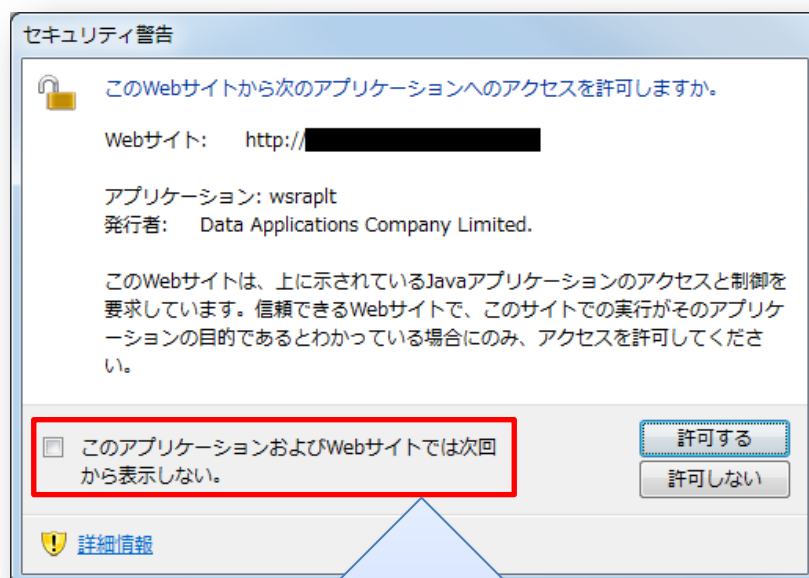
● 表示されるダイアログ



④ アプリケーションへのアクセス許可

バージョン	JRE 8U5～8U152
タイミング	操作ケース5・6の送受信機能のいずれかを行った時
回避策	「このアプリケーションおよびWebサイトでは次回から表示しない」に☑を入れ許可する

● 表示されるダイアログ



【注意】

本警告にて「許可しない」を選択すると、「送受信中にブラウザ画面がフリーズする」問題が発生します。

既知の問題について

Windows 10 Creators Update 適用環境にて、送受信アプレットが使用する Java がクラッシュする

バージョン	JRE 8U51～8U131
発生条件	・ Windows 10 バージョン1703（Creators Update適用済） ・ 通称「GodModeフォルダ」を作成し以下のように配置している 1. デスクトップにGodModeフォルダを配置 2. 送受信ファイル選択ウィザードにてフォルダ移動時にGodModeフォルダの配置場所に到達
タイミング	・ GodModeフォルダがデスクトップに存在する場合は操作ケース2．3．4 ・ デスクトップ以外にGodModeフォルダを配置した場合は操作ケース5，6でフォルダ移動時に発生
回避策	最新のJREにアップグレードする
FAQ情報	弊社FAQに本事象の詳細が掲載されています。 「Windows 10 Creators Update適用環境にて、送受信アプレットが使用する Javaがクラッシュする」

付録：セキュリティ・ベースラインと有効期間

■ セキュリティ・ベースライン

セキュリティ・ベースラインとは、Java の最小推奨更新のラインを表します。

Java のアップデート・バージョンがリリースされると、ベースラインが更新されることがあります。

現時点の最新バージョンは JRE8u152 で、セキュリティ・ベースラインは 1.8.0_151 となります。

現時点でのセキュリティ・ベースラインは Java のリリースノートを参照して下さい。

<Java8 Update Release Notes>

<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/documentation/8u-relnotes-2225394.html>

例えば、JRE 8u92 を使用して送受信 Applet 機能を起動した場合、使用する JRE のバージョンとセキュリティ・ベースライン 1.8.0_151 を比較し、「下回っている」と判断します。

■ 有効期間

JRE8 の JRE に、有効期限がハードコーディングされるようになりました。

https://www.java.com/en/download/faq/release_changes.xml

■ セキュリティ警告との関係

「JRE のセキュリティ・ベースラインを下回っている」または「JRE の有効期限が過ぎている」場合は、「Java Update」の警告プロンプトが表示されます。

尚、セキュリティ・ベースラインと有効期間のチェックの仕様は、Java に依存します。

当社では詳細な仕様を把握することはできませんので、予めご了承下さい。